増山 英太郎 (東京都立大学 人文学部)

Eitaro Masuyama(Tokyo Metroporitan University)
A Factorial Analysis of the Appreciation of Humor

お笑いの10演目を各々約3分ずつビデオによって21名の被験者に見せ、その印象を18対のSD評定語対によって7段階評定させ、結果をSMCを対角要素とした因子分析を行った。10演目の内容は、落語が¹⁾鯉のたいこと⁴⁾京の茶漬け、漫才が²⁾巨人・阪神、⁶⁾サブロー・シロー、漫談が³⁾小堺一機と⁸⁾月亭八方、漫画が⁵⁾サザエさん、コントが⁷⁾チャーリー・カンパニー、⁹⁾ウッチャン・ナンチャン、¹⁰⁾タケシ軍団であった。なお、左上方の番号は、実験順序を表す。因子分析の結果、固有値1以上の因子が3つであり、そこまでの累積寄与率が95.5%であった。次に、3因子によるバリマック

ス回転を行って表示したのが、表1である。因子の命名を行ってみると、第1因子は、わざとらしい下品⇔自然な上品因子、第2因子は、軽快テンポ⇔テンポ遅れ因子、第3因子は、ナルホド・ホンネ⇔ホンネ出ず因子、となった。これら因子の命名は、対角要素に最大値を入れても1を入れても、全く同様になった。最初のSMCを対角要素とする場合について、因子得点を求め、演目毎に95%の信頼楕円でくくって見たものの一部が図1と2である。いずれも、1、2軸が張る平面上での表示であるが、図1では、上、下方向の差が顕著で、図2では右上、左下方向の差が著しいことがわかる。

＜表1＞ ##### FACTOR ROTATIONS #####
Number of FACTORS = 3
<<< FACTOR LOADINGS (VARIMAX ROTATION) >>> 対角要素がSMC

	F A C T O R			I	II	III
	1	2	3			
1	0.079	-0.031	0.474	言葉聞き違いが関係		ホソネ発言が聞かれる
2	0.476	0.006	0.111			ほろぼどと思う部分あり
3	0.014	-0.002	0.628			
4	0.617	-0.009	-0.335	わざとらしいところあり		
5	0.577	0.164	-0.176	ぬけている人がある		
6	0.580	0.109	-0.069	誇張したところあり		
7	0.162	0.658	-0.227	(全体的印象)軽い		
8	-0.440	0.145	-0.125			
9	0.265	0.751	0.057	(")テンポ早い		
10	0.323	0.512	-0.296	(")よめらか		
11	-0.660	0.116	-0.007	(全体的印象)下品		
12	-0.361	-0.111	-0.116			
13	0.214	-0.306	0.029			
14	0.536	0.254	-0.409	(話全体として)見落している		
15	-0.454	-0.138	0.464	(")ウツ、ほい		
16	0.375	-0.557	0.147		(話全体として)あべりてい	
17	0.362	0.613	-0.008		(演者は)成績が良い	
18	-0.319	0.107	0.150			

① 自然な上品因子 軽快テンポ因子 ナルホド・ホンネ因子
↓
④ わざとらしい下品因子

< FACTOR CONTRIBUTIONS >
FACTOR # 1 = 3.155
FACTOR # 2 = 2.221
FACTOR # 3 = 1.370